

平成20年9月

# いしかわの農林水産業

石川県農林水産部長

勝山 達郎

【目次】

「いしかわ森林環境税」とは	1
キーワードは「県民の理解と参加による森づくり」	2
県産材の利用拡大のチャンス	3
日本の食の自給率は39%	4
キュウリのサイズは棚のサイズ	5
1人年間130キロのお米を食べていた	6
棚田の価値は660億円！	7
「ルビーロマン」を石川県の宝として	8
「加能ガニ」でブランド化	9
食の安全・安心を守る	10
農業人材の育成と農業農村を守る応援団	11

【資料】

北国新聞 H20.8.10	インタビュー「ルビーロマン流通目前」県農林水産部長 勝山達郎氏	12
〃 H20.8.11	「ルビーロマン」デビュー 最高値1房10万円	13
中日新聞 H20.8.11	県産「ルビーロマン」初競り 1房10万円	14
ルビーロマンポスター		15

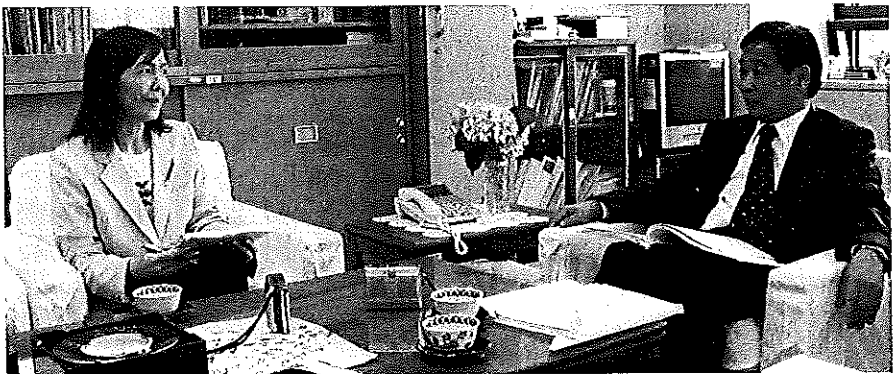
# 今、いしかわの 農林水産業は

石川県農林水産部長

勝山 達郎

聞き手 コミュニケーター

早川 芳子



## 「いしかわ森林環境税」とは

早川 一番興味のあるのは、私たちが払っている森林税です。友人に森林税の話をしたら「それ何ですか？」と聞かれました。「届いたでしょう、大きな字で五〇〇円と書いたものが」に、「知らない」と言われました。「早川さんは山を持っていて特別に払うのでしょうか」ですって。周知度もプラスしながら、いくら集まって、どんなことに使われているのかを教えてください。

勝山 正式な名称は「いしかわ森林環境税」と言います。「環境」という言葉が付いているのが重要です。導入の理由ですが、現在、石川県内の山には杉の人工林がたくさんあります。戦後、裸山になった日本では、これから木材が必要になると考え、先人が一生懸命に木を植えたのです。その木がだんだん育って、既に四十年から六十年が経ちます。

ところが、高度経済成長の頃から安い輸入材がどんどん入ってきたので、木材価格が下がったのです。反対に木を切る人の賃金はどんどん高くなって、経

済的な管理が出来なくなったのです。もちろん林道があつて伐採できるところは、経済的な目的で木材を出すことができますが、山奥に植えた木は採算が合わないで切れない。ところが人工林は木を切らないと、過密になり、光が地表に届かなくなり、草も育たない。ここに雨が降れば土がどんどん流れて、山に水を蓄える力がなくなるのです。

そういうわけで、人工林の管理を経済的にやっていける所と、そうでない所に分け、やっていけない所は県民みんなで守ろうと考えたわけです。土砂の流出防止や水資源のかん養といった森林の公益的機能を維持していくためには、県民みんなで森林を守るべきではないか。それで、いしかわ森林環境税を作つて、県民一人あたり年間五〇〇〇円を納めていただくことにしたものです。

昨年は三億六〇〇万円が集まりました。普通、杉を育てるには、徐々に木を間引いていく間伐をします。この間伐をする際に森林環境税では強度間伐と言って、本数の四〇%を間伐します。すると太陽の光が入って、一年か二年経つと広葉樹が自然に生え

できます。生えてこない時は植えます。これを森林環境税でやろうとしています。

四〇%間伐したら、森林所有者は、二十年間、ここでは皆伐や転用をしてはいけません。すると、杉と広葉樹の両方が育ち、地表には植生もできて、水資源のかん養が図られるようになります。

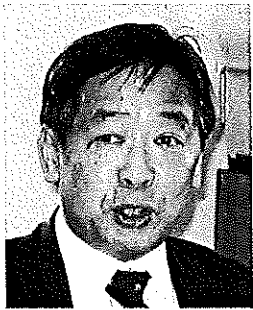
早川 「山の自然の力を呼びさまそう」みたいで、格好いいですね。

勝山 それもあって、名前を「いしかわ森林環境税」としたのです。森林を環境のために守ろうではないかと平成十九年度から皆さんに負担をお願いしています。去年は約一三〇〇ヘクタールほど間伐しました。今年も二〇〇〇ヘクタールする予定です。十九年度から二十三年度までの五年間で、基本的には水源地对象として、私たちの水道水を取るところより上の山をまずは守ろうと、優先的に取り組んでいます。私どもは農林水産部ですが、農林水産業という「業」でなくて、「環境」を守ろうとの観点で仕事を始めています。

習などのボランティア活動をしていただくとして、今年も約四十団体が活動される予定です。やはり、一番大事なのは「県民の理解と参加による森づくり」だと思います。

実際に、実感ツアーに参加された方は、森林の大切さが分かったとか、森林を守ることがこんなに大変なんだとか。自分たちで下草を刈って枝打ちをして、それらを実感できたことは非常に良かったとか、皆さんからの評価は高いです。

今後、積極的なPRに努めていきたいと思っています。手入れの不足している森林の整備も進みますし、県民の理解も少しずつ進むのではないかと思います。早川 最初に五〇〇円のお知らせが来て、お支払い



勝山 達郎部長

キーワードは

「県民の理解と参加による森づくり」

早川 こんな良いこと、価値あることに対して五〇〇円を払うのなら、毎年、森林環境税についてのチラシをいただけませんか。最初にこの税を徴収し始める時は大きな文字の広報が来ました。その後、「あの五〇〇円どう使われているのかな」と疑問に思っていました。「これだけの効果がありました」「ここまでやりました」の報告が来ると、払う方もうれしい五〇〇円になります。

勝山 そうですね、効果的なPRに努めたいと思います。私たちが広報活動を一生懸命やってはいますが、なかなか浸透していないようです。県では、例えば森林環境実感ツアーというものをやっています。昨年もたくさんの方に参加してもらいました。

早川 それはいいですね。

勝山 六三〇〇人参加されました。毎年十月を「森づくり推進月間」として、「県民森づくり大会」を各地で開くとか、一年を通して実感ツアー、体験学

する時に、「五〇〇円で本当に役に立つのかなあ」と思いました。でも、今お聞きしたら、ずい分と役に立っていることが分かります。

勝山 当面五年間で、約一万ヘクタールの森林を整備しようと考えています。手入れの不足している森林が、県内で約二万二〇〇〇ヘクタールありますから、十年かけて取り組みたいと考えています。その際に、県民の皆さんがこの実態がよく分からないのではないかと、今年から学識経験者や一般の方で評価委員会を作りました。その中で五年後に総合評価し、六年目以降も続けるかどうかについてもこの委員会でも議論してもらおうと考えています。

早川 作業をする人は石川県の人で足りていますか。きつい仕事はなかなか日本人がしたがるものではないので、作業しているのは日本人ですか。

勝山 各地域に森林組合があり、森林組合の方がしっかりと取り組んでおります。

早川 お金があれば何とかなるものでもないとは思いますが、大変な作業なのでしょう。

勝山 専門的になりますが、いしかわ森林環境税で



森林環境実感ツアー  
(奥能登)



森林ボランティア活動



森林環境実感ツアー  
(小松)

勝山 今も家を建てる際に県産材を一定量以上使った方には補助金を出しています。さらに今年からは県産材を活用する運動を盛り上げようと、石川県に本部を置く八つの金融機関にお願いして、県産材を

一定量以上使った場合に住宅ローンを優遇していたり、制度を始めました。谷本知事と先日協定を結んでいたが、既にその運用が始まっています。こういった取り組みをもっとPRしていきたいと思いま

県産材の利用拡大のチャンス  
勝山 今度は、採算の合う本来の林業の話に移りますが、早川さんは、家を建てる時、石川県の家で石川県産材が何%使われているかご存じですか。たった一五%です。何故かという、外国から輸入している木材製品が安いからです。しかし、最近、ロシアが自国の産業を守るため原木を出すのに輸出税をつけて輸出させないようにしています。また、中国が経済的に発展して木材をどんどん輸入してい

ます。このため、外材の値段が上がっています。早川 中国は法律を変えています。立ち木が、伐採材木の三倍の価値があるとしたら、むやみに切らなくなつたそうです。勝山 外材が値上がりしているこの時をチャンスと見て、タイミングよく県産材を売り込もうと活動しています。間伐した木は家の柱や壁に使えます。人件費などコストの問題がありました。今は高性能な機械で木を切つて処理までします。昔なら人が一日かかったことを、機械が十分から二十分です。一五%しか県産材が使われていないのは、県産材の値段が外材に比べて高かったからですが、いまは外材の値上がりと作業の低コスト化により、外材に太刀打ちでき

る環境になってきています。早川 七年前、新築の際に県産材を使おうと見積りを出してもらったのです。県産材をどれだけか使うと補助金もいただけるということだったので、あまりにも金額が高くて、庶民には手が出ませんでした。

行間伐は、木材として利用しないのです。深い奥山では木を切り出せないため、木が流れないようにして積んで、その場に置いておくだけなので、労力はかかりますが、作業内容としては割りりと単純です。今、建設業は公共事業が減ってきていて仕事が少ないのですが、森林環境税で行う間伐は、特別な技術を必要としないことから建設業者も参入しています。早川 雇用促進にもなっていますね。知りませんでした。

早川 雇用促進にもなっていますね。知りませんでした。早川 中国は法律を変えています。立ち木が、伐採材木の三倍の価値があるとしたら、むやみに切らなくなつたそうです。勝山 外材が値上がりしているこの時をチャンスと見て、タイミングよく県産材を売り込もうと活動しています。間伐した木は家の柱や壁に使えます。人件費などコストの問題がありました。今は高性能な機械で木を切つて処理までします。昔なら人が一日かかったことを、機械が十分から二十分です。一五%しか県産材が使われていないのは、県産材の値段が外材に比べて高かったからですが、いまは外材の値上がりと作業の低コスト化により、外材に太刀打ちでき

す。これからの林業も変わりますよ。  
早川 面白いですね。新しいドアが開かれたようですね。

### 日本の食の自給率は三九%

勝山 「環境」と「業」、二つに分かれて展開することは良いことだと思います。

早川 地球温暖化で各国が厳しくなったが、日本も石川県もタイミング的に良かった。

勝山 異常気象で、例えばオーストラリアの干ばつで小麦がとれないという話があります。

早川 車も水で洗ったら駄目とか。

勝山 干ばつで雨が降らないから砂漠化が進行しますが、砂漠化とは農地がなくなることです。日本と同面積の農地が毎年砂漠化で消えています。一方で、人口が二〇五〇年に九十億人になります。

早川 毎年七〇〇万人ずつ増えているそうですね。

勝山 今、中国とインドが経済発展をしています。

そこで何が起きているかと言えば、中国は既に穀物輸入国となっています。今まで穀物を食べていた

人が、豊かになって今度は牛肉を食べるようになったのです。

早川 食生活の変化ですね。豊かになれば人間の食事はどうしても肉や乳製品に移動していくのですね。

勝山 肉食が増えると、牛が穀物を食べますから一キロの肉を育てる時には一キロの穀物が必要になります。一一倍必要とするのですから穀物が足りなくなります。

今、世界の食料は非常に不安定な状況です。穀物の値段も上がっています。

早川 そんな中、バイオエタノールの導入で、スーパーマーケットとガソリンスタンドとが穀物を巡って競争しています。

勝山 トウモロコシをエネルギーで使うか、食料で使うか、競争しています。それで食料が大変厳しい状況になっています。

早川 その中で日本は自給率をあげなければいけない。

勝山 そうですね。今回、国の「骨太の方針」で食料自給率を上げる目標が盛り込まれましたが、その

力を高める必要があります。もう一つ重要なことは、食の問題が地球の温暖化にも影響を与えているところです。新しい概念で、フードマイレージという考え方がありますが、これは、食物を食べたら、それがどこから運ばれてきたか、どれだけ輸送エネルギーを使ったかということで、食料の重さに距離数を掛けた指数で表すものです。

早川 家の庭で作ったジャガイモだったら、一キロ掛けるゼロメートルです。でもジャガイモを作るのに使った肥料が遠いところからきたら、それも掛けたと言われました。

勝山 その考え方です。例えばアメリカから一キロの食料を持つてくれば、その間船で運んでくる分C



早川 芳子さん

O<sub>2</sub>が発生しています。日本の食料を食べれば、運ぶためのCO<sub>2</sub>の発生も少なくなります。遠くから運んでくれば、その分だけCO<sub>2</sub>を多く発生させています。やはり身近な食料を食べるのが大切ですね。ですから、私たちは今「地産地消」を強調しています。

早川 四七都道府県の中で、全部平均して日本の食の自給率は三九%。石川県だけで見るとはできませんか。

勝山 残念ながらできません。例えば、富山県から運んでくる輸送量を調べていませんから、富山県からどのくらい入ってくるか、石川県からどのくらい運び出しているか分かりません。

国の品目別の率を使って単純に試算したものであれば、四九%という率がありますが、あまり意味がありません。だから議会でも、「石川県の食料自給率はどうですか」と聞かれますが、算出は困難だと答えています。石川県で一番重要なのは、足腰の強い生産力を作ることに加え、「地産地消」や「食育」で県民の皆さんが石川の食べ物食べていただくこ

とです。六月議会でも多くの質問が出ました。皆さんの関心も非常に高くなっています。

### キュウリのサイズは棚のサイズ

早川 NHKの番組で、日本の農業政策があまりにもコロコロ変わるのです、その土地その土地にふさわしくないのではと、批判的なプログラムを見せています。一方的な見方ですが、中国やアメリカなど大きな農場でこれまで作らなかったコシヒカリなど高級米を作る映像も映していました。そこで作れば、高級米も日本の十分の一の値段で生産できますと見せられると、本当に心配になります。

日本の農業政策が去年の初めに変わりました。大規模農場に補助金が行く。すると、例えば一〇軒ぐらゐの農家が集まって一つのグループを作り、ようやく補助金がある。そのため「灌漑用水を移動しよう。いや、そんなことできない」と言い争っている報道番組がありました。大丈夫かなあと心配なのですが……。

勝山 いろんな視点がありますね。これは私たちにキュウリにしても、いろんなサイズがあるに決まっているのに、スーパーマーケットは売り場の棚のサイズにしなさいと注文する。絶対に矛盾しています。石川県の農業を司る人として、どのように消費者教育をしたらいいですか。

勝山 私たちが一番良いと思っているのはやはり「地産地消」です。

早川 これを進めるのですね。  
勝山 ここにあるものを食べていただく。食べてもらう時には現場を見ていただく。そこで体験をしていただく。私たちが今やりたいと思っているのは農業の応援団を作っていくことです。その応援団に実際に現地へ行つて、農業を見ていただき、一緒に農作業を手伝っていただくのです。

農作業は苦しいかも知れませんが、それだからこそ楽しみ、喜びも大きいのです。草刈りをして棚田のお米を収穫した時には喜びを感じます。心の安らぎもあります。食育の方向に展開していけば、自分の身体に気をつけようとするから何を食べたらいいか。どこで作られているのか。その方向につなが

も責任があると思うのですが、一番の問題は、県民の皆さんがあまりにも農業や森林の実態を知らないということかと思えます。森林環境税を作つて初めて、皆さんが少しずつ森林の状況を知り始めました。

早川 五〇〇円でも自分が身銭を切ると、これはどう使われているか関心を持ちますね。

勝山 県民は食べ物を通して農業を知っているかもしれませんが、農業の実態を必ずしも詳しく知っていないわけではありません。私たちは農業の実態を県民に知ってもらおう、理解してもらわなければいけないと考えています。その理解が真に農業を育てる協力に繋がればということで、今後、農業に対する幅広い応援団を作つて行きたいと考えています。

早川 消費者も勝手なところがあつて、絶対に矛盾することを言いますよ。典型的な主婦たちの会話を聞いていたら、「野菜の外観がきれいじゃないと嫌だ。安全でないと嫌だ」と言います。矛盾していませんか。虫も喰わないハウレン草だったら、どうやって作っていますか。本当に安全に作ろうと思つたら、どこか必ず虫が食べて穴があいているでしょう。



田んぼの学校（田植え）

っていくと思います。

県民の皆さんに知っていたいただきたいのですが、まずは小学校、中学校、高校時代に、すこしでも早めに経験をしてもらうことが大切だと思つてます。今、県では田んぼの学校推進プロジェクトとして、小学生に田植えや収穫の体験をしていただく取り組みを進めています。

ここでは、さらに、環境面の取り組みを入れていきます。田んぼにはいろんな生き物がいますよね。そこでの生き物の調査などを組み入れています。農作業と言えば来てくれませんが、例えば田んぼへ行ったら生物が二十種類以上も見つかったと言えば、自然に対して、興味が沸いてきます。

一人年間一三〇キロのお米を食べていた

勝山 もう一つは学校給食で県産食材を是非使っていたいただきたいのです。今は、県内の学校給食に平均で週三・四回石川県産のお米を使っていたいています。

早川 現在は、パン給食での楊枝混入事件で、米飯

勝山 そうです。今は食生活が変化して、一人六〇キロと、半分以下です。結果として何が起こったかという、今までどおりお米を作ると余ってしまう。余ると価格が下がるのです。作り過ぎをどうするのかが一番の課題です。

食生活の変化で、お米を作らない水田が増え、空いた水田で麦や大豆など輸入に頼っている作物を作るようにしています。例えば小松市などに六月頃に行くと収穫間近の大麦がたくさん見られます。野菜なども植えて、米だけの栽培から転換しようとしています。皆さんにはどうしてそんなことをしているのかあまり理解されていないのです。

今でも減反という言葉が使われていますが、米の消費が落ちたから単に減反しているというだけではなく、その農地を利用して国民の食べる食料を作っているのです。そこまで説明しないと、県民の皆さんの誤解を招いてしまいます。

早川 減反は悪者扱いされていますね。

勝山 お米の値段も近年低下していますので、水田の面積をある程度大規模にまとめて、低コスト化を

がちよつと増えましたね。

勝山 そうですね、そのことで米飯が増えたと聞きました。

早川 子供たちには好評だそうです。とてもおいしいお米だと聞いています。

勝山 昨年、かほく市の学校給食を谷本知事と私が子供たちと一緒に食べました。びっくりしたのですが、みんなご飯をいっぱい食べます。みんなお代わりするので。おいしそうに食べていて、その時に農家の方に野菜をどのように作るかについて出前講座をしていただきました。このような活動をどんどん増やしたいと思います。

それとお米の新しい活用方法も検討したいと考えています。米粉パンと言って、米の粉で作ったパンを食べていただく形で展開しようと思つています。日本の農業で一番難しい課題はやはりお米ですね。

早川 どういう意味ですか。

勝山 昭和三十年代は一人一三〇キロ以上のお米を食べていました。

早川 一年間ですか。



稲刈り (奥能登)



図らないと経営が成り立たちません。ここに一人の経営者がいるとすると、最大一〇〇ヘクタールぐらいは経営できますが、一軒の農家が所有している農地は、平均一ヘクタール弱です。ですから、権利関係の調整もあるのでそれだけの農地を集めるのはなかなか難しい話です。また、現在農業をやっている人が高齢で、大型トラクターに乗れなくなってきたという状況があります。稲作経営で採算がとれる最低規模は二〇ヘクタールぐらいなので、そうこうしているうちに稲作をやる人が減っていくということが考えられます。そのちょうど稲作農家がいなくなる時に、農地の貸し借りをスムーズに行って農地をまとめ、大規模経営でやっていく人を育てておかないといけないのです。

早川 リレーの次の走者みたいですね。

勝山 仮にバトンタッチできないで、高齢のお父さんが農業をやらなくなったら、一体誰がやるのですか。早川 荒地になりますね。日本の政策は小さな農家に意地悪していると、素人には思えますね。ある知り合いがアイガモ米(注)を作っていますが、去年の

できるでしょうが、能登の棚田などでは、農作業に手間がかかり、どうしても生産性は低くなります。そんな人たちには中山間地域等直接支払制度といって、平野部と棚田の生産費の格差を国と県と市町で補ってんしています。

早川 五年毎でしたか。

勝山 そうです。五年毎に制度を見直しし、現行制度は平成二十一年までやることになっています。私たちは国に対し、引き続きこの制度を続けるべきだと提案しています。それは、棚田の水田は長年にわたって土の流出を止め、水を貯める公益的機能を持っているからであり、営農が継続されないと、国土の荒廃を招くことになるからです。

早川 いろんな役割がありますね。お米を作るだけではなくて。

勝山 そうですね、大雨が降った時には水を貯めて、洪水から守ってくれる。このような農業や農村が持つ公益的な機能が石川県では年間六六〇億円もの価値があると試算されており、これらを守っていくために中山間地域等直接支払制度を活用しています。

新政策が始まる前までは、補助金を貰っていたのですが、去年からは貰えなくなりました。お金がかかる上に、補助金は貰えない。「お米の値段を上げないと、苦しい」と言っています。

(注) 農業を使用せず、田にアイガモを放つことで雑草を防ぐ稲作手法

### 棚田の価値は六六〇億円！

勝山 意地悪という表現は少し誤解がありますね。農林水産部の政策も、業として成り立たせる政策と地域の環境を守るための政策があり、その両方を行っています。そのバランスを現代にマッチした形に少しづつ見直ししているということなのですが。

早川 何か難しそうですね。

勝山 稲作のやり方一つとっても、規模拡大型もあれば、環境保全型もあります。今は多様な展開がありますので、これを一律で考えることはなかなか難しい状況です。環境を守る政策についてもいろいろあります。例えば平野部の水田と山間部の水田では生産条件が違います。加賀平野なら大規模な生産が

それともう一つ、農地や水路は、農家だけでは守っていけないという話があります。水路は消雪や防



河北潟での清掃活動

火などの生活用水として住民みんなが利用し、それが下流の田んぼの真ん中の水路へと流れていきます。昔は住民のほとんどが農家だったので、それを農家の皆さんで守っていたのです。それが、今は非農家が多くなって、農業集落といっても非農家が九割を占めているところもあります。私たちは水路を守るとか、雑草を刈るなどして環境を良くするとかの活動は農家だけが行うのでなく、恩恵を受けている住民の皆さんと一緒にやっていきましょうと、地域ぐるみで行う取り組みを支援しています。

例えば、河北潟干拓地でもゴミ拾いや植樹、環境調査を行うなど、いろんな活動を野鳥の会といった環境団体も含めた皆さんと一緒にやって取り組んでいます。

早川 河北潟まで行くとソフトクリームのおいしいところがありますね。

勝山 そうですね、あの道路沿いについても景観をきれいにしようと思ふ余分な木を切ったりしています。あそこは結構ゴミが捨てられるので、金沢市民などにも来てもらって、一緒にゴミ拾いを行う環境活動

として成り立つように魅力ある産業にしてあげないといけないということです。

早川 もしかしたら、若い方もやってみようかと思われるかもしれませんね。

勝山 そうです。魅力ある産業となるために例えば本県独自で開発したブドウ「ルビーロマン」に期待しています。一粒の大きさが巨峰の約二倍もあり、鮮やかな赤色をしたブドウの新品種ですが、これを今年の八月から売り出そうとしています。他にも「能登大納言」という小豆、「 $\alpha$ のめぐみ」という豚肉水産では「加能ガニ」など、売れる農林水産物、いわゆるブランド化に取り組んでいます。

幸い石川の加賀と能登の名前は全国的にも有名です。例えば、加賀野菜や能登野菜の品質や品揃えをより高めて、ブランドづくりをする取り組みをしていく。その時に一番重要なのは生産者だけではなくて、川上から川下まで、要するに生産者から消費者まで皆で取り組む体制づくりです。そんな考えもあり、先日発表した「ルビーロマン」のロゴマークも三つの環にしました。これは生産者と流通関係者と

も行っていきます。

話は変わりますが、私は毎年5月に海の清掃を行うクリーンビーチいしかわの実行委員長をしています。その際には、いつも、水産業のためにゴミを拾いましょうと挨拶をしています。農林水産部は業もありませんが、実は環境が業にも貢献していると考えれば、その活動も大事です。

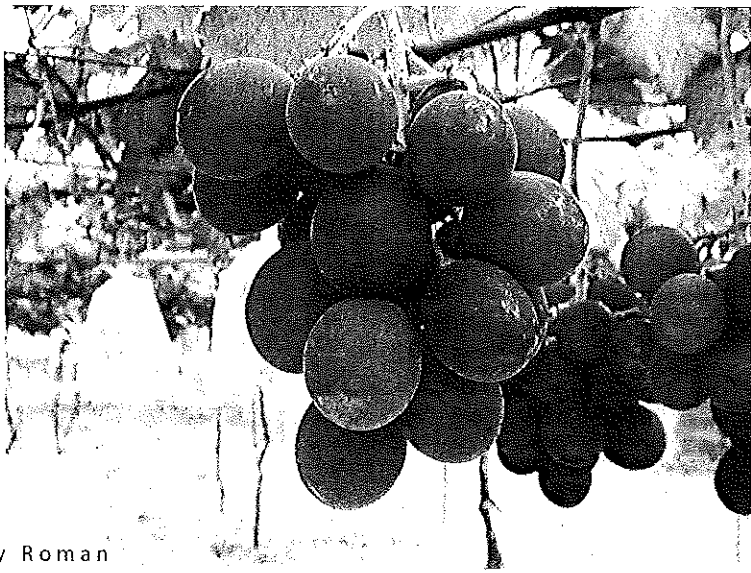
早川 切り離せませんね。環境を守るだけでお金ばかりかかるのは困りますよね。

勝山 業も成り立たなければいけないし。農林水産部の仕事は結構幅広いのです。

### 「ルビーロマン」を石川県の宝として

早川 幅広いし、一石何鳥みたいなのがあったり、一石一鳥だけど、なんとか二鳥にしたり、すごいですね。しかも、地球温暖化とか、現実に遅れないように先取りしないとダメですね。

勝山 先取りが大変ですが、なにより、やはり農業が業として成り立つことが重要です。そのためには三つの視点があると思います。一つはしっかりと業



ルビーロマン



Ruby Roman

消費者を表しています。三者が一緒になって「ルビ  
ーロマン」を育てるのです。この考え方は、園芸作  
物はもちろんお米でもやっています。是非、「ルビ  
ーロマン」を石川県の宝として本県を代表するブラ  
ンド品目に育てていきたいです。

二番目としては、稲作や麦・大豆といった大規模  
経営に適した農業では、しっかりとした経営体に農  
地を集積していかなければいけないということです。  
農業を本県の基幹産業の一つとして振興していくた  
めには、農地を有効に活用できる経営体に相当部分  
を担ってもらう農業構造を実現していく必要がある  
と考えています。

三番目は、農地や水路などの農業基盤ですが、特  
に石川県の場合は白山水系のきれいな水があります。  
この水が水田農業に使われています。石川県では一  
万キロメートルの水路があるとされていますが、  
その長い距離を水が運ばれて初めて稲作ができ、作  
物ができるのです。それを考えれば、その農業基盤  
をいかに守り、後世に伝えていくかということが重  
要だと思えます。

せんね。これまで通りだとすごく多くの水を使うで  
しょう。頭が痛くなるくらい考えることがたくさん  
ありますね。

勝山 農林水産部はいろんな資源も抱えているし、  
施設も抱えています。今ある施設は戦後間もなく造  
りましたので老朽化が進んでいます。そこでストッ  
クマネージメントという考え方を導入し、例えば人  
間の間からだと同じように診断して、壊れそうになっ  
たら早く治そう。早く治せば、人間の間からだと同じ  
で寿命が伸びるということ、今年からその取り組  
みを始めています。

早川 予防医学ですね。

勝山 私たちは予防保全と言っています。

早川 いい言葉ですね。

### 「加能ガニ」でブランド化

勝山 農林水産部は水産業もあります。

早川 水産の人たちで有名な話は、東北でカキ貝を  
作っている方が、「森は海の恋人」と、漁師さんた  
ちに山に登ってもらって、植林をしたり手入れをし

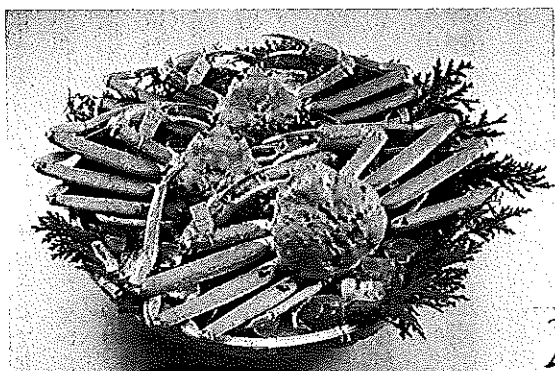
早川 水の量も穀物を作るには素人が思っているよ  
りも、すごい量が必要なのです。

勝山 そうです。日本は農産物を輸入していますが、  
これを日本国内で作った時に必要とする水の量で換  
算すると、約六三〇億トンの水を輸入しているのに  
相当します。六三〇億トンとは、日本で使っている  
すべての農業用水より多い量です。世界では今、水  
が足りない困っています。それを考えるとすご  
い量です。

早川 「水と引きかえでなければ穀物も野菜も売ら  
ないぞ」という時代になるかもしれないと言われ  
ていますね。交換でないと売らないと。

勝山 そうなると怖いですね。幸い石川県では白山  
があるので水はわりと豊富にありますね。辰巳用水、  
大野庄用水、七ヶ用水、宮竹用水とか、江戸時代に  
作られた重要な用水施設があります。また、能登に  
行くため池があります。ため池も重要な水資源で  
す。これらをしっかりと守っていかなければならな  
いと思います。

早川 水を使う時の効率をあげていかないといけま



加能ガニ



アマエビ

たりしています。子供たちにもカキの養殖を見せ、この水は森から流れて来るのだと教えていますね。勝山 石川県もやっていますよ。先ほどのいしかわ森林環境税を活用して、森づくりに貢献している方を表彰しています。今年は、四月二十九日の県民みどりの祭典で二団体一人人を表彰しましたが、その一つの珠洲市の漁業士会では一年にわたって植林や下草刈りなどの手入れをされており、この取り組みが評価されました。他にも多くの方が取り組んでいますので、これからもどんどん表彰していこうと思っています。

早川 やはり誉めてあげるの大切だと思います。石川県が他の県と違うところは、海岸線がものすごく長いことです。そのために水産業ではこんな問題があるとか、こんな良いことがあるとか、何か石川県らしい取り組みや問題点がありますか。

勝山 そうですね。石川県の取り組みとしては、農協と同じように漁業協同組合というものがあります。その漁協が一昨年の九月に一つの漁協になりました。県一漁協の誕生です。これまでたくさん漁

その意味からも、今回は水産業の皆さんが、まとまったことで、今後の展望が開けました。

早川 それはうれしいことですね。今までは加賀野菜が前面に出ていたので、石川県の魚がおいしいこととはみんな知っていますが、ブランド名で遅れをとっていましたね。

勝山 後もう一つ。県一漁協が出来たお陰で、金沢中央市場で朝せりを行うようになりました。今までは産地市場でやっていたのでバラバラだったのです。それで金沢へ来るのに時間がかかっていました。今度は金沢市の市場で八時にせりをやることになり、漁師さんが魚をそこへ持つてくるので、その日の食事に間に合うようになりました。

早川 すごく新鮮なものが手に入りますね。

勝山 いろんな効果が出てきています。他にも、今年度から新たに石川県の各地の魅力ある水産物を首都圏にも積極的に売り込んでいく仕掛けを考えています。漁業者が大手スーパーなどの販売ノウハウをもった企業とタイアップすることで、販路拡大につなげて行きたいと思っています。

協があつたため、それぞれで魚を売り出しても、販売のロット(量)が揃わないためなかなかブランドというまでにはならなかった。例えば、ズワイガニにしても各漁協ごとに売り出していましたが、今回県一漁協になったことを契機に、加賀の「加」、能登の「能」から一字をとって「加能ガニ」として、全県一緒にブランド化して売り出そうという新しい取り組みを始めています。そうは言っても、氷見ブリ、越前ガニなどを見ると、先方は江戸時代からの歴史がありますので、昨年から取り組み始めた石川県が、簡単に一朝一夕で成り立つことではないのですが、県一漁協の設立を機に、石川県を代表する魚を売り出す活動ができるのではないかと思います。

県産ズワイガニには青いタグを付けています。それが「加能ガニ」の印です。甘エビもこれからこのような展開をしていかなければいけないと思うのですが、これが出来なかったことが石川の欠点だったのです。なかなか「石川の魚」として売り出せなくて、そのうちに隣の県が有名になったのです。

早川 画期的ですね。

### 食の安全・安心を守る

早川 食の安全・安心の問題はどうですか。

勝山 安全・安心な食べ物を県民に理解してもらいながら作っていくことが重要だと思います。今は食の安全・安心がいろいろなところで言われますが、関心の高まりを一過性で終わらせてはダメだと思えます。このためにも、食育や教育が重要であり、学校の先生方とも連携して行きたいと考えています。

早川 最近青森県で鳥インフルエンザの問題がありました。石川県では対策マニュアルはありますか。

勝山 もちろんあります。もし鳥インフルエンザが発生したらどう対処するのかといった方法や体制がマニュアル化してあります。これに基づいた訓練も実施しています。

早川 あの白い服もすべて準備してあるのですか。

勝山 もちろんです。家畜保健衛生所に必要な数を準備しています。今は、まずもって鶏が鳥インフルエンザにかからないようにするため、野鳥が鶏舎に

入らないように網をしつかり整備することを指導しています。また、先般、他県で鳥インフルエンザの話が出たときは県内のすべての鶏舎で消毒を行いました。

早川 ウイルスの侵入に対する防御をしつかりしているのですね。

勝山 そうです。そのほか最近食品の表示の問題もあり、食に関する県民の意識が高まってきていることから、組織的にも食の安全・安心を守るための業務を一括して行う農業安全課を作つて対処しています。

### 農業人材の育成と農業農村を守る応援団

勝山 最後にりましたが、今、農業人材の育成・確保に関する検討をいろいろと進めています。これは農業を守るということを考えた場合、やはり基幹的あるいは企業的経営能力を持った農業後継者を育てることが基本となりますが、もう一つは、新しい血を入れることが大事だと考えています。例えば企業参入といつて、食品業者や建設業者が農業を始め

るとか、非農家の方が新たに就農するというようなことです。

また、石川県がはじめての新しいやり方だと思いますが、農業を理解してくれる応援団を作つていくことです。先般、ある企業がCSR（企業の社会貢献活動）の一環として、農家が減少して農業や共同作業の実施が困難になっている集落へ、応援活動をしてくれるということで、県と協定を結びました。このような活動が徐々に増え始めています。能登半島地震の時もありましたが、地域貢献へつながるボランティア活動をしたいと考えている方がたくさんおられます。農村には安らぎや教育的な機能がありますからね。

特に今、里山の重要性がいろいろなところで言われています。農業農村こそは里山だと思います。この「農業農村を守る」そんな応援団を作ろうと考えています。そこで、このような応援団も広い意味での農業人材と位置付けて、その育成策や、支援策について、検討を行っています。検討には農業者だけではなく、ジョブカフェ石川の方、東京で人材派



田んぼの学校（生物調査）

遣事業をやっている方、国連大学のあん・まくどなるどさんにも参加していただくなど、幅広い人に参加していただき検討委員会を作りました。活発な議論をいただいで農業人材の育成プランを今年度中に作ろうと、精力的に取り組んでいるところです。このような取り組みは、石川県が全国で初めてではないかと思えます。実際に農業者だけが石川県の農業を支えているのではないと思っておりますし、それはできないことです。だからと言って、県民が農業を支えるんだと言われても、どうしたら良いのかわからない方もいます。やはり、農業に参加して知っていたいただくことです。森林と同じですよ。農業を知つてこそ支えることができるのですね。

早川 重要性がわかれば、みんな強い味方になりますよ。

勝山 是非ともお願いします。

早川 今日のお話で、石川の農林水産業の姿がずいぶん見えてきました。いいお話を聞かせていただいた有難うございました。

先日、県が広報向けに助成する雑誌で「二十二年」に及びインターネットビューが掲載された。その中で、十一日に初競りとなる県産の新品種「ドウ」「ルビーロマン」を「石川の宝」と語った。国からの出向組として、県農業総合研究センターの技術者たちが長年かけて生み出した「宝」への思い入れ、そして石川の農政に対する本気度はいかほどのものか。

「産地偽装や中国製ギョーザの異物混入で食の安全・安心が揺らいでいる。これからは生産者はかりではなく、消費者ニーズをつかんだ売れる



商品づくりが求められるんだ。ルビーロマンの成否は、消費者に軸足を置いた県農政へ転換できるかどうかの試金石だよ。もちろん真剣さ」とにかくしゃべる。こちらがタイミンクを測らなければ、なかなか質問させてもらえない。学生時代は落語研究会に所属していたとのこと、得心がいった。しかし、まくしたてるような口調に「消費者に軸足」という言葉が何度か登場するのが気になった。聞けば、自民党の武部勲元幹事長が農相時代、大臣補佐官として「食と農の再生プラ

ルビーロマン流通目前 県農林水産部長 勝山達郎氏

ン」の作成に携わったのが、この人のルーツらしい。

武部農相の補佐官

「今では当たり前のことなんだけど、これ(フラン)を打ち出したことで農水省は消費者重視を宣言した。当時は消費者の不安が一気に拡大し、情報が右往左往して省内のムードは危機的だったんだ。これで事態を打開したといっても過言じゃないんだよ」

自画自賛の口ぶりだが、この人が言うつと鼻につかないのは、物腰の柔らかさゆえか。同窓によれば、農業工学分野

かつやま・たつらう 東大農学部卒。1978年農林水産省入省。在サンフランシスコ日本国総領事館領事、農林水産大臣補佐官、同省水利整備課施設管理室長、農林水産技術会議事務局国際研究課長などを経て、05年4月石川県参事(農林担当)、07年4月から現職。長野県出身。農学博士。55歳。

が記憶に残る。略歴を見ると、補佐官に就いたのは失言騒動直後だった。補佐官は常設ポストではないが、省内で大臣の監視役としての能力が買われたとも漏れ聞く。

「武部さんは揚げ足を取られただけで、わたしは失言と思っていないよ。補佐官が置かれたのも監視じゃない、トッパウン型への大臣機能の

「消費者に軸足を置く」



売れる商品づくり 「石川の宝」試金石

で入省した同期の中では、五本の指に入る逸材という。武部氏といえは、BSE(牛海綿状脳症)絡みの相次ぐ失言

強化が狙いなんだから」 転換期の人 ルーツはもう一つあるらし

ろうとしている」。よくよく「転換期の人」らしい。出向組の県庁での在籍期間が長くて三年が通例だがこの人は四年目に入った。部長長の中でも農水部長は一目置かれる重要ポストで、自席にどつかと座り、指示を出す部長が多かったが、この人は席を温めることなく、現場を飛び回る。腰の軽さもあってか、「(谷本正憲)知事の受けが良い」との評がもっぱらで愛嬌もある。大臣室や世界の穀倉地帯を舞台に培った手腕で、「高貴な宝石」に例えられるルビーロマンをどうカット(研磨)していくのか。力量が問われるのは、むしろこれからである。(山本佳久)

## 最高値 1房10万円

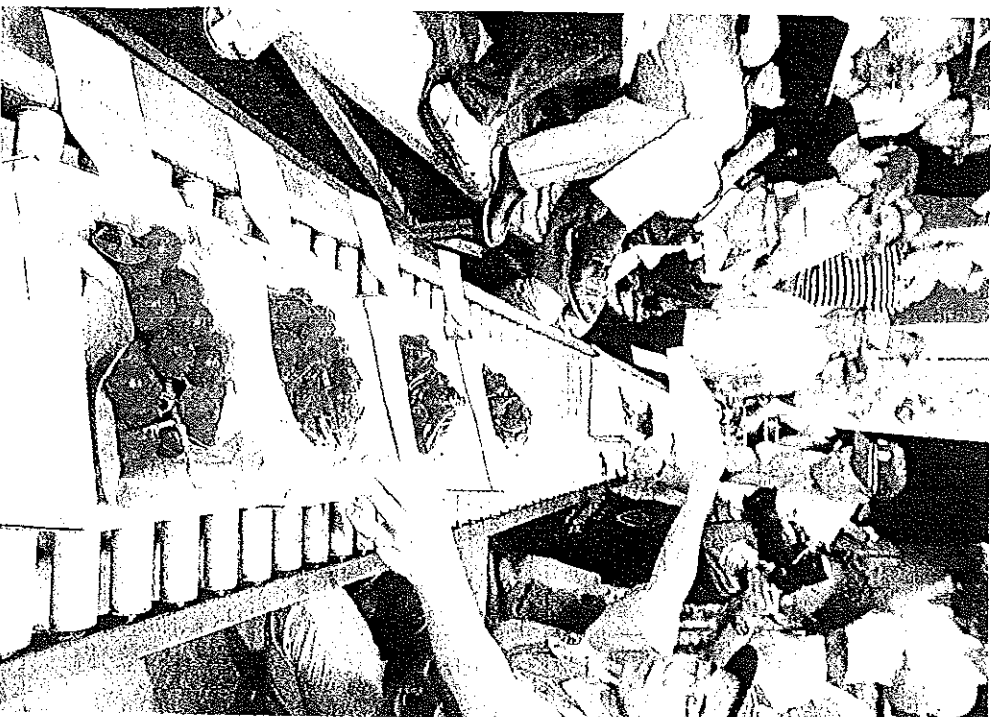
### 「ルビエロマン」デビュー

石川県産の新品種ブドウ「ルビエロマン」の初競りが十一日、金沢市中央卸売市場で行われ、生産者が丹精した四十八房が競りにかけられた。最高値は一房十万円、金沢で初競り

石川の新たなブドウ作物の「初競相場」で市場は活気がついた。  
ルビエロマンは粒の大ききが巨峰の二倍近くあり、鮮やかな赤色と果汁の豊富さが特

徴。最高値のルビエロマンは竹森勉さん（ぎざ）竹森どう園、かほく市川が栽培したもので、加賀屋（七尾市）で宿泊客に提供される。市場を訪れた谷本正憲知事は「石川の宝」として大きく喜んでいる」と語った。

初競りにかけられたルビエロマン。手前の1房が最高値で競り落された  
十一日午前6時10分、金沢市中央卸売市場

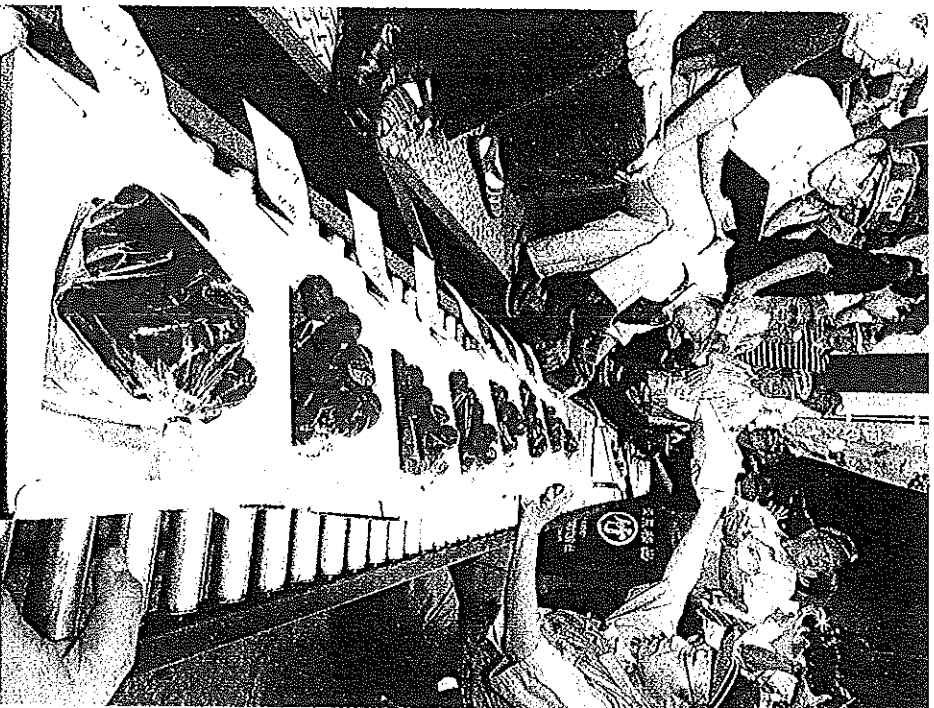




# 一房10万円

## 県産「ルビローマン」初売り

石川県が開発した国内最大級のブドウ新品種「ルビローマン」の初売りが十一日朝、金沢市西念の市中央卸売市場であった。初出荷分四十八房をめぐって競りが行われ、同県七尾市の旅館「加賀屋」は一房（七百㌔）十五万の競高値を付けた。  
（報道部・宮原幹成）



初売りにかけられ、次々と高値で競り落とされるブドウの新品種「ルビローマン」。三十一日午前、金沢市西念の市中央卸売市場で

ルビローマンは、県が栽培作物として一九五五年から開発に取り組み、昨年に品種登録した。皮は鮮やかな赤紫色。直径が平均三センチ以上、重さは巨峰の約二倍という大きさと、さわやかな甘みの特徴。

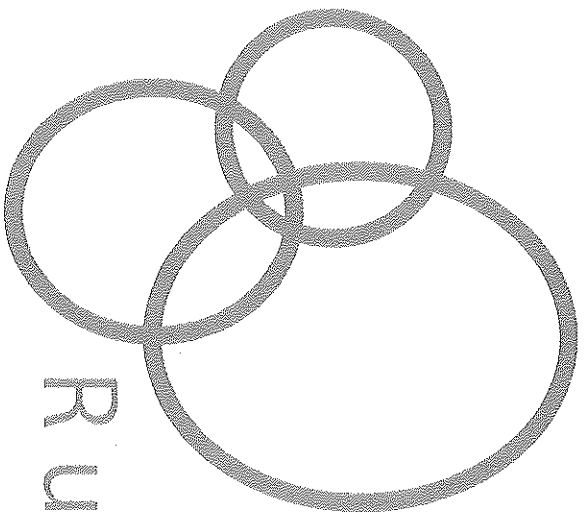
初売りに立ち会った谷本正憲知事は「石川のまじろで消費者の心に響くよう、皆さんの力をこれからお願いしたい」とあいさつした。

同県内では、金沢市や小松市、かほく市などの農家で生産され、こしは九月中旬まで五千五百房、九百㌔の出荷を予定。生産者らでつくるルビローマン研究会の大田翼会長（むし）かほく市は「もっとうどさんへの人口は入るよう生産していきたい」と意気込んでいた。

## 加賀屋落札



2008年8月登場



Ruby Roman

それは、宝石にいちばん近い果実

石川県産オリジナルぶどう

「Ruby Roman」

「Ruby Roman」  検索